

子どもゆめ基金 20 周年記念事業・令和 3 年度国立山口徳地青少年自然の家教育事業

星をみる会

令和 3 年 5 月 22 日（土）、7 月 24 日（土）、8 月 12 日（木）、10 月 2 日（土）、
11 月 20 日（土）、12 月 4 日（土）、令和 4 年 3 月 5 日（土）

【目的】

親子を主な対象に、本所が有する資源を活用した自然体験活動である「天体観察」の機会を提供する。その際、季節によって自然のすがたが変化することなど、自然に対する理解をより深められるよう、年間を通じて計 7 回開催する。

【参加者】天体観察に興味・関心のある家族 延べ 250 名（5 回開催）

【プログラムの内容】

回	開催日	テーマ
1	5 月 22 日（土）※中止	春の星座と北斗七星・月（月齢⑪）
2	7 月 24 日（土）	宵の明星と昇る満月&土星
3	8 月 12 日（木）※中止	ペルセウス座流星群・土星
4	10 月 2 日（土）	夏の星座と天の川・木星・土星

回	開催日	テーマ
5	11 月 20 日（土）	木星・土星・小さな月（月齢⑮）
6	12 月 4 日（土）	金星・土星・木星（惑星直列）
7	3 月 5 日（土）	冬の三角と長寿星「カノープス」

「宵の明星と昇る満月&土星」（第 2 回）



満月が徐々に昇る様子を見ている参加者から、「動くのが速いね」などの声が聞かれた。

ふだん星空をじっくり観察する機会が少ない参加者にとって、自然に対する観察の目を養うために、月や星の動き、なぜ動いているのかといった指導員の解説を踏まえて、自分の目で確かめる機会となった。



「夏の星座と天の川・木星・土星」（第 4 回）



天の川や夏の三角形の解説を聞きながら観察した。

「住んでいる所が工場が多いので、夏の三角形がギリギリ見えるか見えないかで（中略）だんだん星が増えるように広がる光景に感動しました」という参加者の感想からも分かるように、多くの星が見える貴重な機会となった。

「木星・土星・小さな月」（第 5 回）



大型天体望遠鏡で月を観察している参加者から「このギザギザしてる部分が欠けてるの?」「わかった!」といった声が上がった。プロジェクタと模型を利用して、当日の月の状況を説明したことにより、月を観察する際の視点を学ぶ機会となった。

【参加者の声】

- ・前回雨で星空観察ができなくてリベンジしました。念願の土星が見れて子供も満足しました。（第 2 回）
- ・講師の方が複数いらっしゃり、娘たちが質問しやすくてありがたかった。（第 4 回）
- ・月が明るくて少し残念でした（第 5 回）
- ・月の満ち欠け部分を初めて見ました。とても感動しました（第 5 回）

【成果】

- ・「前回雨で星空観察ができなくてリベンジしました。念願の土星が見れて子供も満足しました」というアンケートの記載があったように、年間を通じて複数回開催することで観察の機会が増え、自然に触れる機会をつくることができた。
- ・指導員が 2 名いることで、1 名が天体望遠鏡を操作して観察できる天体を紹介している間に、もう 1 名がレーザーポインタを使用して星座や特徴的な星を紹介するなど、参加者が様々な星空のすがたを観察する機会をつくることができた。

【課題】

- ・天候によっては参加者にとって十分な観察の機会が提供できないことがあった。そういった場合にも参加者が「来てよかった」と思えるよう、模型やプロジェクタを用いた説明について指導員と十分に打合せしておく必要がある。
- ・「月が明るくて少し残念でした」という感想があった。これは、満天の星空を期待している参加者と、その回のテーマである明るい月の観察との間にギャップが生じた結果と考えられる。このギャップが不満につながらないよう各回のテーマとそこで観察できる天体が参加者に適切に伝わるような広報や説明のしかたが重要である。